



愛隣幼稚園.....

# 園だより

.....17. 4月号

## 幼稚園が始まる

待ちわびた満開の桜、ところがその短い盛りを堪能することが出来ず、今年の春が進んでいきます。曇り空と雨模様が続く4月のスタートとなりました。しかし始業日の朝、子どもたちの元気な「おはよう！」がそんな大人の想いを吹き飛ばし、春はエネルギーに溢れ、期待が膨らむ時と気付かせてくれました。

さて、愛隣幼稚園の新しい1年が始まります。幸せを運ぶ“ふくろう組”を頭に子どもも大人もいっぱい笑って楽しい1年を、力を合わせて創り上げていきましょう。幼稚園は楽しいと子どもたちも大人たちも思える毎日でありたいと願っています。世の中は、子どもを預け、父も母も共に働き続ける子育てのスタイルへ急速な変化を続けています。その流れはすでに主流となりつつあるようです。そんな時代の中であって、敢えてこの時を子どもたちと共にという選択をなさったご家庭が、愛隣の中には少なくありません。嬉しいことだと思っています。私たちは子どもという生活を豊かで、幸せなものだと感じてほしい、子育ては大変もいっぱいだけれど楽しいもいっぱいと思ってほしいのです。愛隣の生活の中でその豊かさを是非味わってください。

幼稚園の行き帰り、子どもと一緒に歩く道は実に楽しいものです（厄介もいっぱいですが）。小さな生き物や草花に足を止め、季節の移り変わりを感じる時。雨の日のわくわくする水たまり巡りに、幼稚園はなんと遠いことかと感じる時。行きたくない足の重い時、心躍って一目散に向かう時。何だかどれも大人の都合や効率なんてことを持ち出されると、無駄なように思われる時間ですが、見方を替えたら、この子と過ごす今だけの贅沢で豊かな時間で、この先には絶対のない時間かもしれません。

お弁当を作ることは時々苦しくなるのですが、お弁当箱を開ける子どもの顔を想像すると、やはりそれは楽しい時間です。私の子どもたちも愛隣でお世話になりました。私もお弁当作りは苦手な方で、休み明けには、時間に間に合うだろうかと緊張し、手が震えていました。キャラ弁のリクエストもスルーさせていただきました。ところが苦し紛れでお弁当箱いっぱい焼きそばを詰めたら、それが子どもには大うけで「あ、そんなサプライズもありか。」と気づき、お弁当作りも楽しい時間になっていきました。

そして子どもたちの毎日は事件がいっぱいです。愉快的ことを考えたり、楽しいことを見つけたりのワクワクする毎日。けんかも起こる毎日。チャレンジが成功したり失敗したりの日。思いが繋がり、力が一つになり充実感を味わう日。共に過ごした仲間とのさようならの日。そんな子どもたちの心動く毎日を、ありがたいことに私たちは共有することができます。時々目にする子どもたちの姿、保育者の話やお便りなどでその様子を知ることでもできますが、子どもたちの語りを聞く時間が一番の共有のチャンスです。幼稚園の帰り道、お風呂の中で、就寝前のゆるりとした時間の中で子どもたちは語ってくれます。それは嬉しく幸せな時間です。

そんな幼稚園時代を通じて仲間になっていく子どもたち。同じように私たち大人も仲間になっていきます。孤軍奮闘だった子育ては、一人じゃないと思える子育てに変わっていきます。やがて、我が子の成長だけでなく、挨拶を交わすあの子の成長も嬉しいと思う私に変わっていきます。（年長のリレーを応援しながらそのことに気づきます。）コミュニケーションが苦手なら、たった一人でもいいのです。安心して話ができる仲間がいたら苦しい時も乗り越えていくことができる、それは子どもも大人も同じです。

さあ、いよいよ始まる幼稚園（すでに始まっている幼稚園）を、子どもも大人も活き活きと楽しんで過ごしましょう。大人が「子どもという生活は楽しい、おもしろい、幸せ」と思えたら、それは子どもにとっても楽しく幸せな時です。石井桃子さん（“ノンちゃん雲に乗る”の作者、翻訳も多数）は「大人になってからのあなたを支えるのは子供時代のあなたです。」という言葉を残しています。今は見えない子どもの未来を支える“今”がここにあると私も確信しています。